

～ 大和高田市水道事業経営戦略 概要版 ～

1. 経営戦略の目的

- 水道事業を含む公営企業では、保有する資産の老朽化に伴う大量更新期の到来や人口減少等に伴う料金収入の減少等により経営環境は厳しさを増していることから、将来にわたってサービスの提供を安定的に継続できることを目的として、総務省は平成28年度より各事業体に「経営戦略」の策定を要請しています。
- 大和高田市水道事業は、人口減少等に伴う料金収入の減少や施設の老朽化状況等、水道事業が置かれた事業環境を適切に把握し、将来にわたり安定的にサービスを継続するため、長期的な経営の基本計画である経営戦略を策定しました。

2. 大和高田市の水道事業

大和高田市の水道は昭和11年に供用開始した歴史の長い水道事業です。水源は奈良県営水道からの受水が100%であり、地形が平坦なため3つの配水拠点からポンプにより加圧して220kmに及び管路を經由して約6万4千人のお客様に水を届けています。口径13mmの家庭用料金は10m³で2,244円となっています。

表1 水道事業の概要

項目		諸元
計画諸元	1 供用開始年月日	昭和11年2月20日
	2 最新認可年月日	平成10年3月18日
	3 計画給水人口	85,000 人
実績等	4 給水区域面積	16.48 km ²
	5 現在給水人口	64,208 人
	6 年間総有収水量	6,322 千m ³
	7 有収水量密度	3.84 千m ³ /ha
施設	8 配水池	7,145 m ³
	9 管路延長	220 km
10m ³ 家庭用水道料金 (13mm)		2,244 円

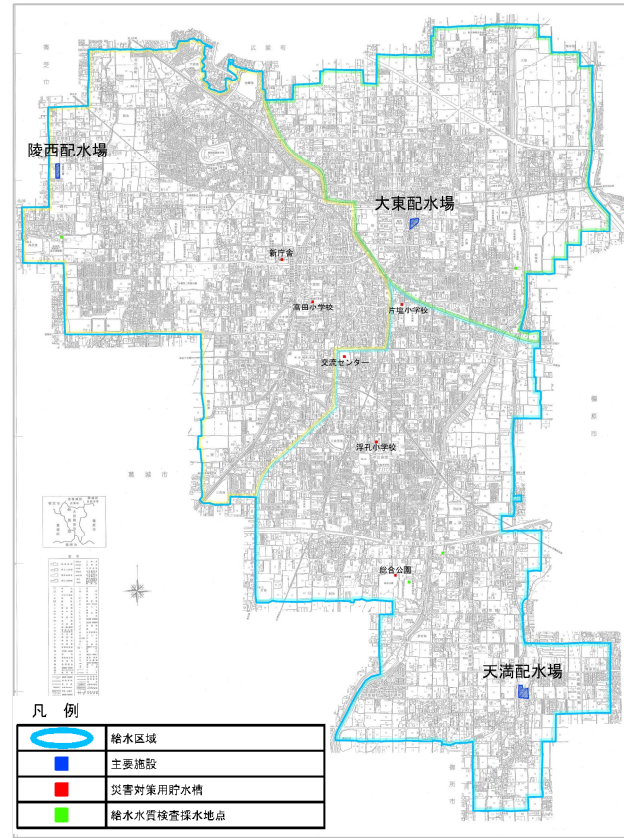
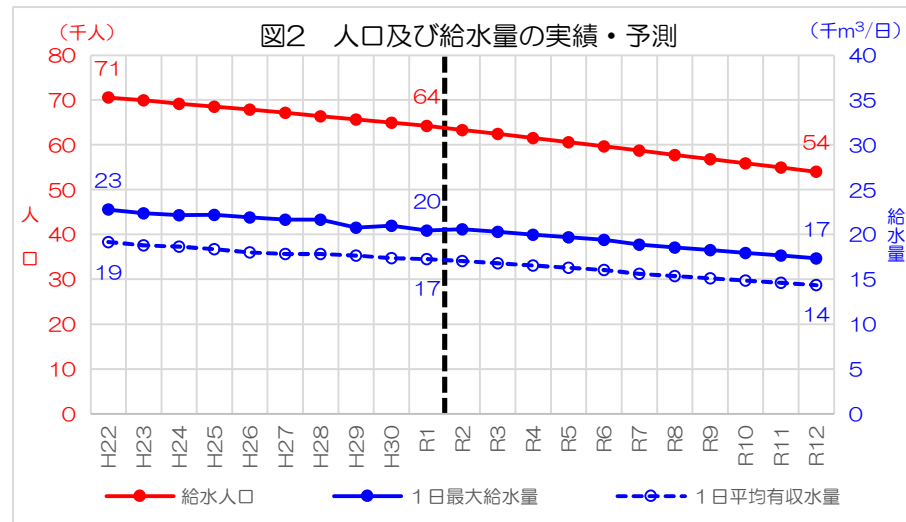


図1 水道施設位置

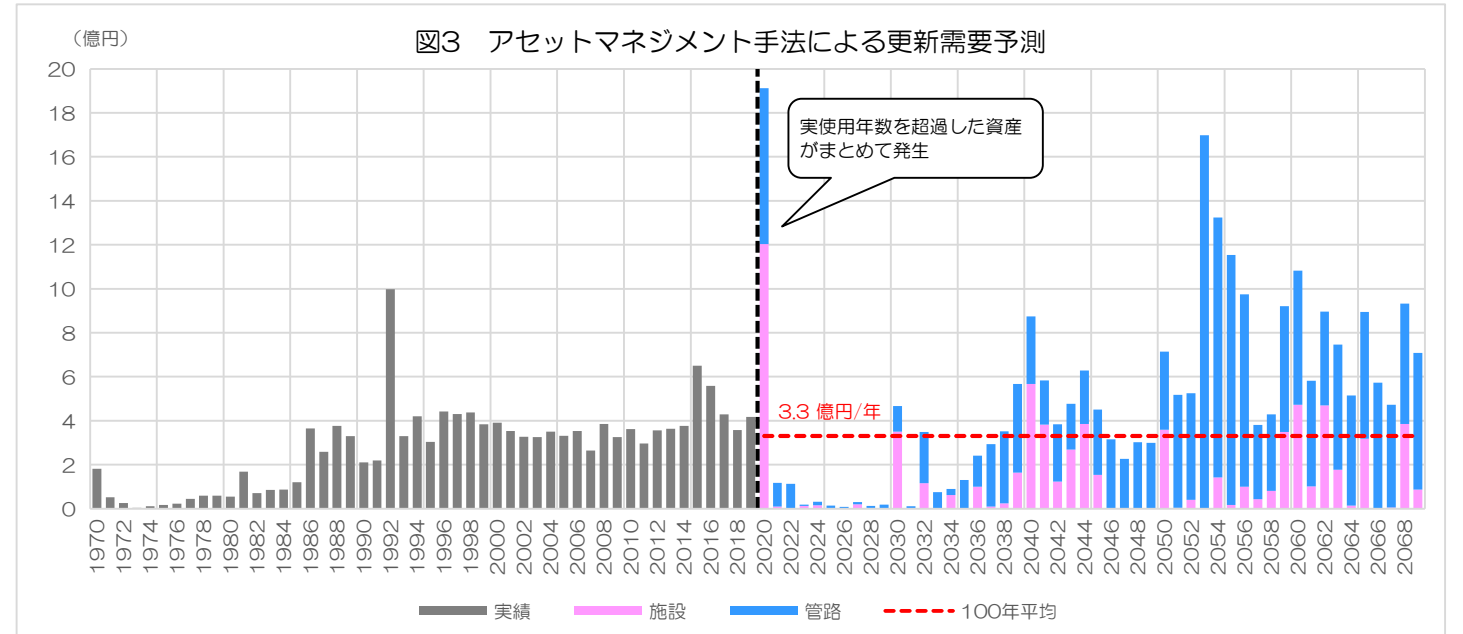
3. 水需要予測

- 近年において大和高田市の人口は減少傾向にあり、将来においても同様の傾向が続くものと予測されます。
- 人口減少に伴い、施設規模や収益の基礎となる給水量も比例して減少する見通しです。



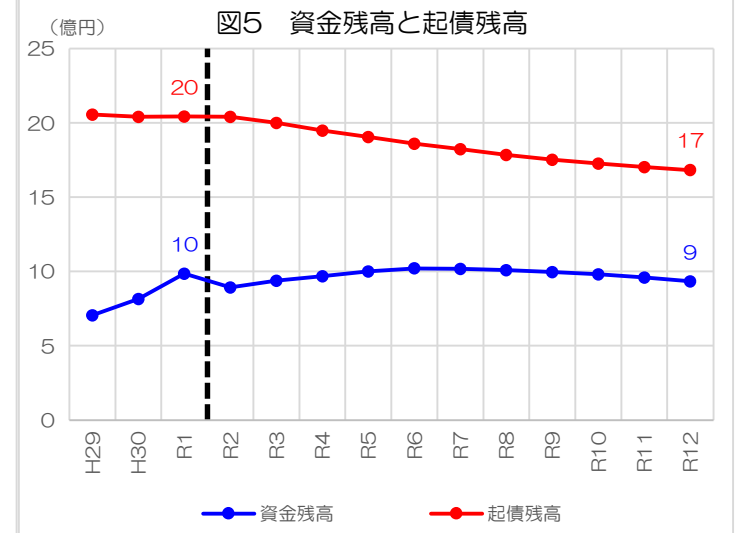
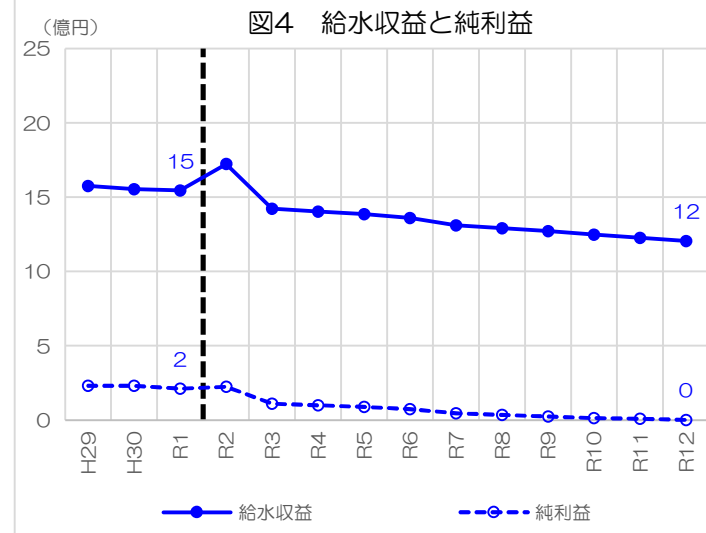
4. 施設・管路への投資額（過去の実績+更新需要予測）

- 大和高田市の水道を構築するために、これまでに多額の投資を行ってきました。現在機能している水道施設や管路の取得額は総額143億円に上ります。
- 施設や管路は経年劣化により機能が低下するので、適切な時期に更新して機能維持しなくてはなりません。アセットマネジメントに基づく更新需要予測では、長期的に見て毎年3億円程度の投資が必要となります。



5. 財政収支予測

- 給水収益は減少する見通しですが、経費削減に取り組むことで、利益を確保できる見込みです（図4）。
- 事業経営に必要な一定額の資金残高の確保と並行して、借入金の返済も行い起債残高を減少させます（図5）。



6. まとめ

- 近年、下水道整備などに伴い効率的に水道管路の更新も進めてきました。
- 今後も老朽化した施設・管路の更新を計画的に行いつつ、一層の経営改善と水道サービスの向上に取り組んでいきます。
- 県水100%受水であり水源や浄水施設がなく、水道資産は配水池と配水管のみのシンプルな施設形態ですが、さらに県域水道一体化を視野に県営水道との連携を強め効率的な投資に努めます。